

西村朗、渾身の新作オペラ！ 世界初演！

インド大叙事詩『マハーバーラタ』による室内オペラ

バガヴァット・ギター

〈神の歌〉

演奏会形式

一般財団法人
知と文明のフォーラム
2013年委嘱作品

作曲

西村朗

台本

北沢方邦

指揮

板倉康明

メゾソプラノ

加賀ひとみ

バリトン

松平敬

打楽器

上野信一

&

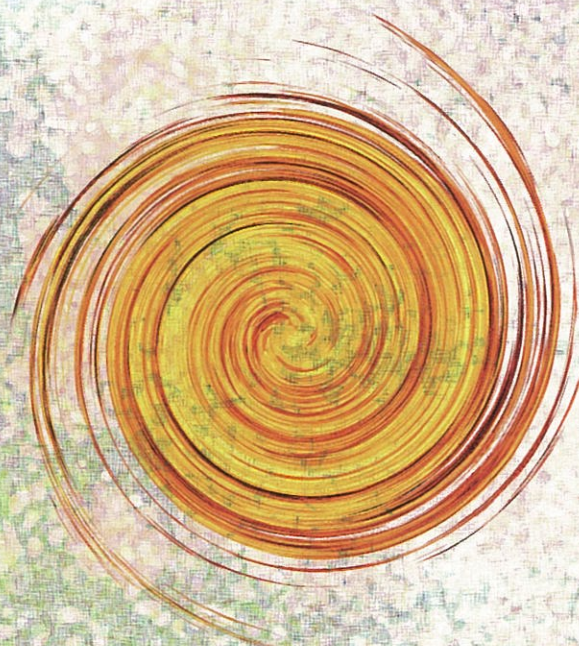
フォニックス・レフレクション

舞台監督

中村真理

照明

望月太介



お問合せ・チケット取り扱い

東京コンサーツ

03-3226-9755

<http://www.tokyo-concerts.co.jp>

チケット取り扱い

サントリーホールチケットセンター

0570-55-0017

<http://suntory.jp/HALL/>

チケットぴあ

05670-02-9999

<http://t.pia.jp/>

[Pコード 201-867]

東京文化会館チケットサービス

03-5685-0650

<http://www.t-bunka.jp>

2013年11月23日(土・祝)

17時開演(16時30分開場)

サントリーホール
ブルーローズ(小ホール)

入場料(全席自由)

一般5,000円/学生2,000円

主催

一般財団法人知と文明のフォーラム

協賛

株式会社ヤマハミュージックジャパン

後援

株式会社ヤマハミュージッククリエイト

ブルーマレット株式会社

制作協力

株式会社東京コンサーツ

「われ、世界を滅亡に導く大いなる死、大いなる時なり。 諸世界を打ち砕くためにここに来たれり！」

破滅に向かって突き進むこの現代世界に、はたして救いはあるのか？

西村朗



作者プロフィール

西村朗 (にしむら あきら) 作曲

東京藝術大学卒業、同大学院修了。現代日本の作曲界を牽引する作曲家。エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞やルイジ・ダッラピッコラ作曲賞を受賞するなど、海外でも高い評価を得ている。近年の受賞は、エクソンモービル音楽賞(2001年)、第3回別宮賞(02年)、第36回サントリー音楽賞(04年)、第47回毎日芸術賞(05年)、第59回尾高賞(11年)等。02年度芸術祭大賞に『アルディッティSQプレイズ西村朗(西村朗作品集5)』が、05年度芸術祭優秀賞に『メタモルフォーシス・西村朗室内交響曲』が選ばれる。10年草津夏期国際音楽フェスティバルの音楽監督に就任。東京音楽大学教授。©東京オペラシティ/撮影大窪道治

北沢方邦



北沢方邦 (きたざわ まさくに) 台本

桐朋学園大学教授、信州大学教授、神戸芸術工科大学・同大学院教授を経て、現在信州大学名誉教授。音楽社会学の著書に『メタファーとしての音』(新芸術社)、『北沢方邦 音楽入門』(平凡社)など。科学認識論関係の著書に『知と宇宙の波動』(平凡社)、『近代科学の終焉』(藤原書店)など。構成人類学関係の著書に『天と海からの使信』(朝日出版社)、『日本神話のコスモロジー』、『歳時記のコスモロジー』、『古事記の宇宙論』(いずれも平凡社)、『感性としての日本思想』(藤原書店)など。翻訳書に『失われた歴史』(M・H・モーガン著、平凡社)など。

板倉康明



出演者プロフィール

板倉康明 (いたくら やすあき) 指揮

東京藝術大学を経てパリ市立音楽院、パリ音楽院を卒業。クラリネット奏者として東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。1996年西村朗作品により指揮デビュー。以後、現代作品を中心に、活発な指揮活動を行っている。©Marc Rouve

加賀ひとみ (かがひとみ) メゾソプラノ

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院オペラ専攻修了。新国立劇場公演『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル役をはじめとして、『カルメン』、『コジ・ファン・トゥッテ』、『魔笛』、『椿姫』、『カヴァレリア・ルスティカーナ』など出演は数多い。二期会会員。

松平敬



松平敬 (まつだいら たかし) バリトン

東京藝術大学卒業、同大学院修了。前衛作品、無伴奏独唱曲のみでのコンサートなどが話題となる。2010年、全曲ソロの多重録音によるCD『MONO=POLI』を発売し、平成22年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞。聖徳大学、文教大学講師。©石塚潤一

上野信一 (うえの しんいち) マルチパーカッション

国立音楽大学を首席卒業。現代音楽の演奏家として国内外で積極的に活動、新作初演は50曲以上。後進の指導にも情熱をそそぎ、門下生に国内・国際コンクール入賞者多数。上野信一&フォニックス・レフレクションおよびアンサンブル・ムジカ・ヴィヴァンテ主宰。

上野信一



上野信一&フォニックス・レフレクション

上野信一を中心に、国内外で活躍するソリストたちにより1987年に結成されたパーカッショングループ。幅広いレパートリーを誇り、その音楽性は高く評価されている。

『バガヴァッド・ギーター』とはなににか 北沢方邦

音楽の天才ベートーヴェンと物理学の天才アインシュタインの共通の愛読書はなににか？ このクイズの答が皆さんにはおわかりだろうか？ それはインドの古典『バガヴァッド・ギーター』である。もともとベートーヴェンの時代ドイツ語全訳はまだなく、インド哲学の本のなかの引用文にいたく感銘して彼は、『日記』にその一部を書き写したのだが。

彼らの心を射止めたのはなににか？ それはすべてを貫く時間の矢に添って出現する宇宙の法(ブラフマン)、つまり宇宙を導く法則が世界を支配していること、したがっ

て人間の生き方も、この法に沿うものなればならないという主張である。合衆国ニューメキシコ州の白い砂漠で行われた世界最初の核爆弾の実験時、目もくらむ閃光と爆発の衝撃のなかで、開発者のひとりオッペンハイマーは、『バガヴァッド・ギーター』の予言的な一節を思い起こし、戦慄した。神クリシュナの恐ろしい宣言、「われ、世界を滅亡に導く大いなる死、大いなる時なり、諸世界を打ち砕くためにここに来たれり！」

インド・ヨーロッパ語では、「時間」という語は同時に「死」という意味を内包する。時は人間にかぎらず、万物の死を導くが、逆にその法則を自覚したとき、はじめてひとも社会も究極の解放と永遠の平和を手に

することが許される。核開発はこの宇宙の法への反逆である。なぜならそれは、本来人間の手を越えた死と滅亡の力やエネルギーによって現世の繁栄をもたらそうという、宇宙の法に逆行する発想と行為だからである。

ヒロシマ・ナガサキより六十六年、東日本大震災にともなうフクシマ原発の重大事故は、このクリシュナの恐ろしいことばをふたたび想起させた。われわれの室内オペラ『バガヴァッド・ギーター』は、大叙事詩『マハーバーラタ』のこの珠玉の一巻『バガヴァッド・ギーター』を音楽の力によって現代によみがえらせ、その真理の声を世界にひびかせようとするものである。



サントリーホール 交通のご案内

電車
東京メトロ南北線
六本木1丁目駅 3番出口より徒歩5分
東京メトロ銀座線/南北線
溜池山王駅 13番出口より徒歩10分

バス
都営01系統バス(渋谷～新橋)
「赤坂アークヒルズ前」下車